



# NBU

## Aerospace Engineering

## ごあいさつ

豊翼会会長

小幡 章



豊翼会会員の皆様、お元気ですか。

昭和49年の設立以来、約2500名の卒業生を世に送り出した「日本文理大学工学部航空宇宙工学科」(平成14年「航空工学科」より変更)は、現在、新しい時代に向けて、航空宇宙設計コース・航空機整備コース・航空宇宙システムコースの3つのコースに構成され、航空宇宙の世界に夢を広げ、意欲と自信を持って十二分に実力を発揮し、積極的で協調性のある人格と優れた技術力を持つエンジニア育成をめざして努力しております。もちろん、本学科で学ぶ学生たちは、それぞれの専門知識を磨く中で、機械、電気系に応用の利く広い範囲の学問、技術を身につけることができるため、航空宇宙の世界のみならず、様々な分野で活躍中であり、これからもますます充実の本学科への期待は高まるばかりです。

「豊翼会」は、そんな卒業生たちの夢を繋ぎ、交流の場となる学科独自の校友会として平成2年に発足しました。その中で、会誌「ほうよく」は、皆さんのお役に立つ情報を発信して行くべく随時発行していますが、今回、第6号の発行以来9年ぶりとなった、第7号「ほうよく」発行をWEBサイトでの発行とし、さらに、豊翼会独自のホームページを開設することになりました。これを機に、全国各地、世界各地から、インターネットを通じ、いつでも皆さんの身近にある「豊翼会」として、これからも親しんでいただきたいと思います。願っております。

## 教職員の皆さんから

皆さんお元気ですか。

豊翼会の皆さんもそれぞれに社会に出て、各分野で頑張ってもらいたいと思います。皆さんが学んだ懐かしい学舎では、私たちは今も、夢に向かって羽ばたこうとしている新しい翼たちと共に、さらなる研究に動んでいます。こちらへ来るがありましたら、ぜひ近況などを知らせに立ち寄って行ってください。



平成 17年度教職員の皆さん

### 各研究室へ

池田 研究室

吉永 研究室

小幡 研究室

南 研究室

鈴木 研究室

磯貝 研究室

竹本 研究室

河邊 研究室

友成 研究室

佐藤 研究室

林田 研究室

井上 研究室

藤本 研究室

## ピックアップ 学科関連のニュースから、卒業生の皆様へ

### 最新の教育設備を導入！

他大学に先駆け、最新の設計ツールである「CATIA」(写真1)を導入。そのほか、実験装置を中心に、最新鋭の機器を導入し、専門教育の充実を図っています。



CATIA



フライトシミュレーター



B747コックピットトレーナ

### CATIA

航空産業や自動車産業などで幅広く利用されているCATIAを導入。これからの時代、ますますその需要が求められる技術の習得に一役かっています。

### フライトシミュレーター

操縦桿を動かすと操縦席が実記同様の動きを再現、さらに視界も動きに応じて変化します。目の前の画面で、実際と同じ滑走路や大空を見ながら、フライト研究が可能です。

### B747コックピットトレーナ

全国の大学に先駆けて、実際のコックピットを再現したトレーニングシステムを導入しました。日本航空より譲り受け、実物にふれながら整備手順や航空計器に習熟することができます。

### 風洞実験設備

吹き出し口 1m角と40cm角の大小風洞設備、二次元煙風洞

40cm低速風洞 / ゲッチングン型風洞、15kW 最大風速 40m/sec 三分力天秤

1m風洞 / ゲッチングン型風洞、75kW 最大風速 55m/sec 六分力自動天秤

煙風洞 / 吹出式、15kW 最大風速 30m/sec

### 構造材料試験装置

大型の万能試験機 (島津製作所 UH-300kN) や小型の材料試験機 (インストロン 5844) を導入し、引っ張り試験、圧縮試験、曲げ試験を実施しています。

### 宇宙機器 (伸展マスト)

1989年に打ち上げられた科学衛星「あけぼの」に搭載された日本最初の伸展マストを改良したものです。伸展マストは、超軽量で伸縮が可能であることが最大の特徴で、当初は、人工衛星から離れたところに計測センサーを設置するために開発されました。その後も、スペースシャトルで回収された日本独自の実験衛星 SFU の太陽電池パドルの伸縮用アクチュエーターに用いられるなど、軌道上で展開する必要のあるものには欠かせない宇宙機器として進化を続けています。

### エンジン性能試験装置

B-73などのAPUに使用されているGTC85(エアリサーチ社)を使用して、エンジンの特性試験を実施し、性能解析や排気ガスの計測も行っています。

## トピックス つづき



航空機が目的毎にどのような際を持つか、学生たちが理解できるよう各種航空機器が活躍しています。

### 学科保有教材機器一覧

- プロペラ式双発機** ビーチクラフトG50ソインボナンザ 1機
- 単発機** ハイパー PA-28-140(チェロキー)1機
- 観測用小型ヘリコプター** カワサキOH-6(ヘリコプター 陸上自衛隊塗装)1機
- 超音速機** ロッキードF-104 Jスターファイター 1機
- その他** ノースアメリカン F-86F セイバー 1機
- エンジン**
  - J47-GE-27ターボジェットエンジン F-86Fに採用
  - T63-A-5Aターボシャフトエンジン OH-6 OH-5に採用
  - TPE-331-25AAターボプロップエンジン MU-2に採用
  - R-3350WR GHT TURBO CYCLONE B-29等に採用 (空冷、星形)
  - FJR710/20ターボファンエンジン 試作 4号機)
  - NAL 航空技術研究所 (QSTOL (STOL実験機) 飛鳥」に採用
  - ダブルワスプCB17ピストンエンジン DC-8に採用



### マイクロ流体研究所設立

文部科学省の私学助成制度の一つである「ハイテクリサーチセンター整備事業」として、昆虫型超小型飛翔ロボットの研究開発」が採択されました。本プロジェクトを実施するために航空宇宙工学科の先生方を中心メンバーとするマイクロ流体技術研究所が平成 17年度に設立され、5か年計画でトンボ型の超小型飛翔ロボットの研究開発を推進致します。(担当：磯貝教授ほか)



### 県中央空港エクステンションキャンパス開設

平成 16年、大分県中央空港 (豊後大野市 大学より約 1時間)に、新キャンパス「県中央エクステンションキャンパス」を開設。航空機整備実習の一部を移して、より実運用に近い状況での学習を実現しています。この県中央空港では、九州航空 (株)がヘリコプターと単発プロペラ機を運用、整備しており、インターンシップなどの協力支援を得ながら、学生の理解度を高めています。



### 霧発生のメカニズム解析

数値シミュレーションによって、局地気象モデルによる大分県の大気の流れや拡散問題に取り組んでいます。特に大分では、別府 湯布院間の霧発生が知られており、高速道路では、しばしば通行制限が行われています。地元への貢献をめざして、こういった現象の解析に取り組んでいます。

## トピックス つづき

### 修士論文 (H17)

- 「航空機の編隊飛行制御に関する研究」/ 河邊・磯貝研究室 稲吉翔太
- 「CFDを用いたトンボの最適羽ばたき運動に関する研究」/ 磯貝研究室 上澤裕一
- 「逆転する大迎角円柱及びロケット模型に作用する非定常コーニングモーメント」  
/ 吉永研究室 中山耕一

### オープンキャンパス

毎年数回、一般人及び高校生対象に全学を解放しています。当科も格納庫や実験室など解放し、施設紹介高校生勧誘に務めています。大学H.P.に実施日程が公表されますから、ご家族で見学にお出かけ下さい。

### 資格取得

- 二等航空整備士学科試験合格21名(5年間)
- 航空級無線通信士合格1名 他

### 優秀学生表彰

- 日本航空宇宙学会優秀学生表彰
- H13年度 江崎 康一
- H16年度 大平 啓介
- 学内「最優秀研究・論文賞」
- H15年度 河邊研究室 溝口 孟 (題名:編隊飛行の最適編隊形状について)
- H16年度 磯貝研究室 大平啓介 (題名:人力羽ばたき飛行機の実現可能性に関する研究)
- H17年度 小幡研究室 門澤美治 (題名:昆虫型超小型飛翔体用曳天秤の開発)

### 就職

お蔭様で2年間連続で内定率100%を実現いたしました。求人活発化のきざしではありますが、卒業生の皆様の応援が戴ければ更に強固なものとなります。後輩のため御助力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

### 卒業記念

- H14年度 「航空宇宙工学科」看板(11号館入り口)
  - H15年度 「桜」の植樹
  - H16年度 「電波時計」
  - H17年度 「白板」
- をいただきました。桜は今年もきれいに咲きました。



電波時計



看板

## 学外実習

2年では自衛隊(福岡県芦屋基地)での研修、3年では、名古屋・東京地区の企業見学、4年ではロケットセンター(種子島・鹿児島内之浦)見学を実施。特に名古屋ではOBとの懇談会も設けて、学生と若いOBとの交流を行っています。

### 学外実習レポート 1

#### 航空自衛隊芦屋基地見学レポート



平成17年2月9日実施  
 2年生19名 引率2名

僕は、就職の第一希望が自衛隊だったので、今回の研修は隊員の方々が普段働いている所を見ることができ、基地の中の様子が良く解りました。最初のバス移動の3時間に皆疲れていたのですが、基地に着き、その上空をT4が飛んでいるのが見え、ジェットエンジンの轟音を聞いたならそんなことはもう忘れていました。まず資料館を見学して、そのあとU-125救難捜索機とUH-60J救難ヘリを見学しました。広報の方だけではなく実際にその飛行機、ヘリに乗って任務に就いているパイロットの方が直に説明をしてくださいました。第一線で活躍している航空機をただ見るだけではなく、乗って、触ってだったので、皆大騒ぎでした。そのテンションのまま、次に管制塔へ行きました。長い階段を上り、管制室に着くと、張り詰

めた空気の中に身を置き緊張感を持って仕事をしている管制官の方々がいました。その緊張感がこちらにも伝わり、皆真剣な顔で見学しました。

昼食には、食堂で隊員の方々と同じ食事を頂きました。質素なイメージでしたが、意外に豪華で美味しかったです。午後のT4のフライトシミュレーターの見学では、あまりの大きさに驚きました。中へ入り操縦席に座って動かしてもらいました。360度周りの景色が画面に映り、操縦席も全て実機と同じで本当に飛んでいるようでした。その後、本物のT4を見に行きました。格納庫の中にも、外にも、T4がズラリと並んでいて、滑走路では、タッチ・アンド・ゴーをしているT4が見れて大興奮でした。また本学OBで飛行練習生の西山さん、白須さんにT4と空の素晴らしさについて熱く語って頂き、T4をバックと一緒に記念撮影もしました。この見学でますます飛行機が好きになり、それに携わる仕事に就きたいという気持ちを強く持つことができました。

(安達龍彦)

## 学外実習レポート2

### 中部 関東企業見学を終えて

旧日は三菱の北工場で、ミサイルとロケットの研究 製作の現場を見学しました。2日目の午前中には飛鳥工場を訪れ、実際に航空機やロケットが造られている現場を見学しました。このような大型の精密機械が人間の手で少しずつ造られていくところを目の当たりにし教科書で見るのとはまた違う 実際の構造を等身大でしかも間近に見ることができ、とてもためになりました。

午後からは、トヨタの自動車製造工場見学に行きました。ここでは、一般の見学者でもわかりやすいようにと案内係が丁寧に説明してくれたり、見学者のための配慮が多く見られました。なにより、人間が手作業で航空機を作っていた三菱と異なり、トヨタではロボットが主流でした。作業員の数は圧倒的に少なく、人間はロボットの管理を行っていたのがとても印象に残りました。同じ日本有数の企業でありながら、まったく違う生産方式に驚かされま

平成 17年 9月 5~ 8日実施  
 学生 24名 引率 3名



企業見学風景 JAL/ 羽田にて

した。

夜、本学科を卒業され、名古屋周辺に就職された先輩方との懇親会がありました。先輩方からは就職するまでの貴重な経験談を聞かせてもらえ、就職に対して漠然としていた意識が確かなものへとかわりました。そのおかげで、それに参加した学生は就職というものに身近に感じられ、いい触発剤となったのは間違いありません。三日目は静岡の航空自衛隊浜松基地の見学に行きました。ここでは本学科を卒業された宮野先輩がいらしゃり、後輩である私たちに実に丁寧に、わかりやすく戦闘機に直に触れさせて説明してくれました。

四日目は JALの成田整備工場、エンジン整備工場を見ることができました。ここでは本学科を卒業された宇賀先輩が活躍されており、整備工場の中を案内しても

らいました。その後、JALの羽田整備工場、ジャンボ機が整備されているところを見学し、実際に使われている大型ジェット機の整備風景を見ることが出来、とても感激しました。この4日間の企業見学は、私たちに企業を身近に感じさせてくれました。就職して活躍されている先輩方の姿を間近に見れ、そして講義で習ったことなどを現物を通して見れたことは何にも代えがたい貴重な経験となりました。この有意義な体験は私たちが来年実際に就職活動をするときに必ず役に立ってくれると思います。このような機会を設けてもらえてとてもためになりました。 (麻生圭美)

## 見学先の先輩より短信

### 近況報告

こんにちは、2005年3月に卒業した宇賀大剛です。現在、私は成田空港でエンジンの整備作業に従事しています。工場に搬入されたエンジンは、大きく分けると『分解前検査 分解 洗浄 検査 修理 組立て 試運転 航空機に搭載』という流れで整備されており文字どおりBolt体、Washer個の単位にまで分解されます。この一連の流れには何百人もの人々が関わっていますが、私はその中で修理にあたる溶接グループに配属されています。職場には何十年も溶接をされている方々もおられ、職人の世界という言葉がぴったりだと思います。

### 見学された方々へ

台風の中、ご苦労様でした。私が働いていて思うことは、学生時代に思った疑問は解決しておけば良かったということです。私の会社の話になりますが、実物のエンジンを眺めていると、あの時、聴いておけばよかったなあと思うことがよくあります。みなさんはあと1年以上時間が残されていますし、周りにはすばらしい知識と経験を持った先生方がいらっしゃいますから、少しでも疑問に思ったことは解決させ、自分のものにしてください。

### 内定している清末君へ

就職活動ご苦労様でした。不安と期待でいっぱいだと思いますが、まずは卒業研究をがんばってください。私も卒業研究をやりましたが、思い通りにならないことのほうが多かったです。しかし、発表会が終わったときの気分は最高でした。今ではあの苦労はいい思い出となっています。それから、会社に入ると学生時代のような自由な時間が少なくなってしまうと思います。残り少ない学生生活を満喫してください。

(2005年3月卒 宇賀大剛)

## 学科クラブ活動

航空宇宙に関する各クラブ活動における活動は、学生に空を飛ぶことの楽しさと共に、安全性をも考慮させる良い機会を提供できる場となっています。

### 鳥人間クラブ

我々、Wind Pilotsは、自分たちの手で航空機を大空へ飛ばしたいという夢を持った学生が集まり、毎年、琵琶湖で行われる「鳥人間コンテスト選手権大会」に出場することを目標にし、より長い飛行記録を立てようと日夜、研究開発、航空機製作、実験解析などを行っています。将来は人力飛行をめざして、プロペラや動力機構の設計、製作を準備中です。



#### これまでの成績

2005年	滑空機部門	15位	40.85m
2004年	滑空機部門	12位	15.14m
2003年	滑空機部門	4位	248.99m
2002年	滑空機部門	8位	160.86m
グアム国際大会	滑空機部門	2位	95.8m
2000年	滑空機部門	13位	30.63m
1999年	滑空機部門	6位	107.62m

### 航空(グライダー)部

グライダー分野では、久住での競技会を中心に活動。多くのOBが社会人となってからも大空を楽しんでいます。近年では経済的制約のため、部員数が減少し、飛行時間も多くはありませんが、少数精鋭の意気で頑張っています。平成16年には、久住合宿所もリニューアル。部員数を増加が期待されます。

### 航空宇宙研究同好会

個人ではなかなかできない「空の遊び」を楽しむクラブ。基本的に一人一人が好きなことをする、気楽で自由な雰囲気のクラブです。現在の主な活動は、紙飛行機やラジコン飛行機の制作と飛行です。紙飛行機大会にも毎年出場して入賞を果たしています。学園祭では紙飛行機教室を開催。近隣の小学校に指導に行ったこともあります。

### NBUフライングクラブ

主に「軽飛行機(セスナ機)」のライセンスを取得するために、合宿やイベントに参加。県央空港をベースに、飛行訓練・体験飛行を行うほか、航空自衛隊のエアショー見学、各種イベントに参加するなど、広い範囲でのパイロットの仕事について楽しく学びます。まさに、本学でパイロットに一番近いクラブで、飛行機好きな部員全員で、軽飛行機を使ってやりたい活動やイベントを企画しています。

## 卒業生の就職先

当学科では、機会電気系に応用の利く広い範囲の技術を身につけられるので、航空宇宙の専門分野にとどまらず、様々な分野で活躍しています。

株 アイ・エイチ・アイシステムズ	大和物流 株)
朝日航洋 株)	竹田設計工業 株)
株 アルプス技研	株 谷テック
株 ヱクヨ	株 ヴァマディック
石川島汎用機サービス 株)	株 中央エンジニアリング
株 エイ・イー・エス	中菱エンジニアリング 株)
JALエアロテック 株)	津田金属熱煉工業 株)
株 JAGP(空港動力)	THK 株)
(株)JAL航空機整備成田	東電工業 株)
(株)JALエンジンテクノロジー	東明工業 株)
(株)AGS(空港グラントサービス)	東洋テック 株)
(株)ANAテクノアピエーション	株 トキメック
(株)ANAエアークラフトテクニク	トニティ工業 株)
ANAM(全日空整備)株)	内外施設工業 株)
株 エヌ・ティ・ティファシリティーズ	西日本航空 株)
川重岐阜エンジニアリング 株)	日設エンジニアリング 株)
川西航空機工業 株)	日本科学工業 株)
株 カンセツ	日本建設工業 株)
享栄工業 株)	日本工業検査 株)
株 ロガネイ	株 日本テクシード
株 ロスモテック	株 パプロ
株 サムソン	株 光製作所
三愛石油 株)	藤倉航装 株)
産機エンジニアリング 株)	富士精工 株)
三共技研工業 株)	株 富士テクノサービス
三友工業 株)	株 放電精密加工研究所
三和工機 株)	三菱自動車エンジニアリング 株)
新高知重工 株)	三菱自動車テクノサービス 株)
セイレイ工業 株)	三菱重工業 株)
株 第一システムエンジニアリング	ミネベア 株)
株 大興	株 メイテック
大東製機 株)	菱友計算 株)
	株 ロケットシステム

## 教授 講師の皆さんの異動報告

使用研究室（一部、分野関連）等をもとに適宜区分してあります。 は平成17年度在職中

杉浦 邦夫 先生 (昭和5年度～平成7年度)  
 矢頭 祥夫 先生 (平成7年度～平成12年度)  
 林田 和隆 先生 (平成13年度～)

井改 実 先生 (昭和5年度～昭和57年度)  
 毛利 浩 先生 (昭和57年度～昭和63年度)  
 木村 春夫 先生 (昭和63年度～平成8年度)  
 川建 和雄 先生 (平成9年度～平成15年度)  
 磯貝 紘二 先生 (平成16年度～)

高月 皓三 先生 (昭和54年度～平成8年度)  
 河野 高顕 先生 (昭和63年度～平成8年度)  
 藤本 達見 先生 (平成7～)

津山 政雄 先生 (昭和49年度～昭和54年度)  
 友成 義正 先生 (昭和55年度～)

三輪 国男 先生 (昭和55年度～平成8年)  
 鈴木 二郎 先生 (平成8年～)

柳井 良真 先生 (昭和50年度～昭和67年度)  
 恩地 瑛 先生 (昭和62年度～平成8年度)  
 吉永 崇 先生 (平成9年度～)

高瀬 幸夫 先生 (平成04年度～平成13年度)  
 池田 多門 先生 (平成14年度～)

長嶋 真也 先生 (平成5年度～平成15年度)  
 南 隆一 先生 (平成16年度～)

古茂田真幸 先生 (平成7年度～平成12年度)  
 小幡 章 先生 (平成13年度～)

吉武 幸夫 先生 (平成2年度～平成10年度)  
 河邊 博康 先生 (平成17年度～)

本地 弘之 先生 (平成14年度～平成17年度)  
 佐藤 輝彦 先生 (平成12年度～)  
 竹本 義夫 先生 (昭和55年度～)  
 井上 敏幸 先生 (平成15年度～)

小川 春央 先生 (昭和57年度～平成8年度)  
 岡田 哲応 先生 (昭和53年度～平成8年度)  
 関 幸 先生 (平成6年度～平成16年度)  
 岩田 進 先生 (平成8年度～平成15年度)  
 本多 恒夫 先生 (平成16年度～)  
 田原 久雄 先生 (平成17年度～)

### 臨時技術員

佐久川基之 (平成7年)  
 片岡 修一 (平成8年)  
 井上 渉 (平成9年)  
 岡田 良 (平成10年)  
 西山 延幸 (平成11年)  
 仲里 亮二 (平成12年)  
 寺田 俊輔 (平成13年)  
 仲西 洋祐 (平成14年)  
 栗原 将好 (平成15年)  
 藤田 友輝 (平成16年)  
 松下 健二 (平成17年)

## 豊翼会会計報告

会計担当 助教授 河邊博康

平成 9年以來、事實上豊翼会の活動が休止状態にあり、その間に会計担当教員も交代致しましたので、ここに豊翼会の現有資産をご報告させていただきます。なお、藤本教授に会計監査をお願いして承認をいただきました。

学生数減少に伴う会費収入の減少、預金利息の減少など収入面で厳しい状況になってきております。お近くの入会されていない卒業生の皆様にも声をかけていただいて、ご協力をお願い致します。

### 豊翼会資産 (平成 18年 3月現在)

普通預金	1,652,542 円
郵便振替	168,900 円
現金	159,711 円
定期預金	3,385,820 円
合計	5,396,973 円

## 豊翼会 会則

### 第1章 総則

- 第1条 本会は「豊翼会」と称する。
- 第2条 本会の本部は日本文理大学工学部航空宇宙工学科教室に置く。
- 第3条 本会の目的は次の3項とする。  
 (1) 会員相互の融和、親睦を計る。  
 (2) 会員の人格の向上と有意義な人生の達成に協力する。  
 (3) 日本文理大学工学部航空宇宙工学科の発展を支援する。
- 第4条 本会は第3条の目的を達成するため、同窓会誌「ほうよく」(名簿、情報連絡、会員短信等)の発行及びその他必要な事業を行う。

### 第2章 会員

- 第5条 本会の会員は日本文理大学(含大分工業大学)工学部航空宇宙工学科(含航空工学科)の卒業生と在校生及び航空宇宙工学科専任の教職員(含退職者)とする。本会の会員は死亡又は本会の名誉を著しく傷つけた場合はその資格を失う。
- 第6条 死亡又は本会の名誉を著しく傷つけた場合はその資格を失う。  
 (大学同窓会「木会」の会則に従うものとする)

### 第3章 役員

- 第7条 本会に次の役員を置く。役員の任期は2年とし再任を妨げない。  
 ただし、現大学教職員の役員任期は1年とし、再任を妨げない。  
 会長 1名 副会長 1名 幹事 4名  
 会計 1名 監査 2名
- 第8条 役員は会員の中より選出し、会長は会員の中より推薦により決定する。
- 第9条 副会長、幹事、会計、監査の役員は会長が指名する。
- 第10条 会長は会務を総括し、副会長、幹事、会計、監査の役員は会長を補佐し、会務を処理する。

### 第4章 支部

- 第11条 支部は当面次の各地に設け、その地域で活躍する会員相互の親睦及び本部との相互連絡の促進を計るものとする。(1)北海道 (2)東北 関東 (3)中部 (4)関西  
 (5)中国 四国 (6)九州 (7)沖縄
- 第12条 各支部にはその地域の会員から選出された支部長1名、副支部長1名を置き、支部活動の総括に当たるものとする。任期は2年とし、専任を妨げない。

### 第5章 運営

- 第13条 役員会は年1回及び必要に応じて会長が招集し次の事項を決定する。  
 (1) 会運営の方針 (2) 会則の改正、廃止 (3) 会計報告
- 第14条 役員会は役員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数をもってこれを決定する。
- 第15条 総会は役員会が必要と認められた時、会長が議長となって開催し、議事は出席者の過半数をもってこれを決定する。

### 第6章 会計

- 第16条 本会の事務は会費、寄付金その他の収入をもって運営する。
- 第17条 本会員の会費は終身会費とし、10,000円とする。
- 第18条 寄付金は役員会の議を経た後、収納する。
- 第19条 会長及び会計役員は毎事業年度毎に事業計画と予算を設定し、役員会の承認を得なければならない。
- 第20条 会長は翌年度の役員会で収支決算書の承認をうけなければならない。
- 第21条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終了するものとする。